

情勢報告（平成28年 6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A津野山甘長トウガラシ「現地検討会」を開催



6月8日、J A津野山シントウ部会が津野町、梶原町で甘長トウガラシ現地検討会を開催し、28名が参加しました。J Aは今後の栽培管理を、農業改良普及課は、甘長トウガラシの樹勢の判断のポイントについて説明しました。

参加者からは整枝方法や追肥について質問がありました。また、参加者間で天敵利用、焼け果対策等の情報交換を行い、高品質生産への意欲が高まりました。

農業改良普及課は、今後もJ A関係機関と連携して、甘長トウガラシの増収、品質向上に向けて支援します。

J A土佐くろしお営農指導員とのミョウガ勉強会の開催



5月31日にJ A土佐くろしお営農指導員13名と、ミョウガの指導技術の向上と現地試験や今年度の生育状況等についての、情報共有ならびに増収技術や今後の検討課題などについて意見交換を目的に、勉強会を開催しました。

午前中は現地ハウスを巡回し、午後は振興センターから炭酸ガス施用試験などの途中経過について報告しました。

農業改良普及課では、今後もミョウガの増収技術の確立と普及に取り組み、農家のレベルアップに繋がります。

須崎農業振興センター農業改良普及推進協議会の開催



6月3日に須崎農業振興センターで農業改良普及推進協議会を12名の委員により開催しました。当日は、H28年度の普及指導計画の内容について各チーム長がパワーポイントで説明しました。

委員から普及課題についての意見交換では、環境制御結果の検討方法について、集落営農組織の品目転換や人材確保が課題であること等意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も委員の意見を参考に普及指導活動に取り組んでいきます。

光合成を意識しよう！雨よけシントウ現地検討会の開催



6月2日に現地検討会を、中土佐町上ノ加江と津野町葉山で開催し、33名の農家が参加しました。農業改良普及課は、増収のための光合成を意識した肥培管理や摘心後の樹勢安定方法、土着天敵の有効利用を含めた害虫防除対策を説明しました。その後、参加農家と意見交換を行い、栽培管理に関する質問も出るなど、お互いに議論したことで理解が深まりました。また、棘の少ないクレオメを用いたタバコカスミカメの増殖について高い関心を示す農家もいました。

農業改良普及課は、今後も光合成を意識した栽培管理や天敵利用による省力化を農家とともに推進していきます。

集落営農の法人化を目指す！～芳生野営農生産組合役員会～



5月30日に芳生野営農生産組合で役員会が開催され、役員5名と関係機関が参加しました。

集落営農組織の法人化の検討を始めており、今回の役員会では28年度中に法人化することを確認し、法人の運営のためには営農担当、経理担当、作業員などの人材の確保が急務であることを話し合いました。組合員からは、法人化や営農の品目転換を早く進めたいという意見も出ました。

農業改良普及課では、今後は組合員へ法人化の研修を行うとともに法人内容の検討を支援していきます。

J A土佐くろしおオクラ部会「現地検討会」を開催



5月30日に、キュウリの後作ハウスオクラで現地検討会が開催され、5名が参加しました。

農業改良普及課は、オクラの害虫であるミナミキイロアザミウマとコナジラミに対する天敵の、スワルスキーカブリダニの天敵利用技術について説明し、5月2日にスワルスキーカブリダニを放飼した後、一度も害虫に対する薬剤散布を行っていませんが、収穫されたオクラ果実に害虫の被害は見られませんでした。

参加者に実際に見てもらうことで、天敵利用技術の効果を実感してもらうことができました。

農業改良普及課では、今後も天敵利用技術について発信していきます。